

「海の日」 ～ 東北地方にまつわる日本人の心

一、平成 23 年

東日本大震災において政治対応がまごつく中、天皇陛下は発生直後に異例のメッセージを発表され、現地を御巡幸されて人々を励まされました。

陛下は「この大災害を生き抜き、被災者としての自らを励ましつつ、これからの日々を生きようとしている人々の雄々しきに、深く胸を打たれています。」とお述べになりました。

二、昭和 21 年

昭和天皇は、「ふりつもる み雪にたへて いろかへぬ 松ぞををしき 人もかくあれ」（積雪に耐え抜き凛として立つ松の木の雄々しきに深く心を寄せられ、我々もそうありたい）とお詠みになり、敗戦で焦土と化した全国を御巡幸された。

福島～宮城県を訪れた際には、地下 450 メートル・40 度の炭鉱まで降りられ、働く人々に励ましの声をかけ、学校で宿泊し、風呂の設備なく、たらいの水でお身体を拭かれ、教室の床に御座を敷いて、お休みになられた。

三、明治元年

戊辰戦争は、西国雄藩ほしんせんそうからなる新政府軍と、東北の奥羽越列藩さいごくゆうはんが死力を尽くし戦う。東北惨敗。しかし日本の近代化は、この律義な東北人の犠牲の上に成立。

明治 9 年

明治天皇は、戊辰戦争後ほしんせんそうの人々を慰撫いぶし激励するため東北を御巡幸。地元の小学生が 蛍一籠ほたるひとかごを持ってきたのを、喜んで受け取られる。

福島～宮城～岩手～青森と北上し、更に津軽海峡を渡り函館はこだてまで強行。三陸沖を南下し、7月20日横浜港に無事ご帰着。

ここにおいて日本は心一つとなり、近代を歩み出したと思われます。よって戦前はこの日を“海の日”として大切にしました。

四、平成 23 年 4 月 27 日

今上陛下きんじょうは皇后陛下とともに、仙台市の避難所を訪問されました。

- ・床に膝をついて見舞われた光景
- ・被災者が、自宅に咲いたという黄色い水仙の花を、皇后陛下が優しく受け取られたシーン等。

は、その昔、昭和天皇が宿泊した教室のゴザ、明治天皇が手にされた蛍一籠とタイアップして、皇室と東北をつなぐうるわしい記憶と思われます。

五、7 月 20 日

この様な由緒を持つ記念日が、ハッピーマンデーなる不思議な制度により不明となりつつあるのは、残念でなりません。

東北に生きる同胞への激励に遠路も通しとせず臨まれた明治天皇、昭和天皇、今上陛下きんじょうの行動とお言葉を心に刻み、被災地復興を願い、支援をしたいものです。